

付属資料－ 6

普天間飛行場跡地利用に関わる まちづくり学習テキスト

「みんなで考えよう」普天間飛行場跡地のまちづくり

～普天間飛行場跡地利用に関わる学習テキスト～

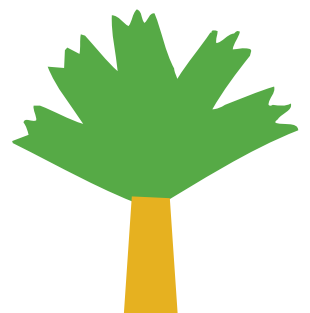


宜野湾市

近い将来、普天間飛行場跡地という
大きなキャンパスが出現します。
そこに宜野湾市民、約9万色の絵具で
どこにもない、未来の沖縄の中心地となるような
すてきなまちの絵をみんなでえがきましょう。



今後、普天間飛行場跡地のまちづくりを実現するためには、多くの市民が普天間飛行場のことを知り、アイディアを出し合いながらみんなが一緒になって取り組んでいくことが重要となります。このテキストは、普天間飛行場跡地利用に関わる基礎的なことをまとめたものとなっています。この本をきっかけとして、多くの市民に跡地のまちづくりに関心を持ってもらえれば幸いです。



目 次

1、宜野湾市ってどんなところ？

- ① 県内での位置 1
- ② 人口推移 1
- ③ 宜野湾市の農業 2
- ④ 宜野湾市の商工業 3

2、普天間飛行場ってどんなところ？

- ① 沖縄県にある米軍の基地 4
- ② 普天間飛行場の位置 5
- ③ 普天間飛行場の大きさ 6
- ④ 現在の普天間飛行場 7

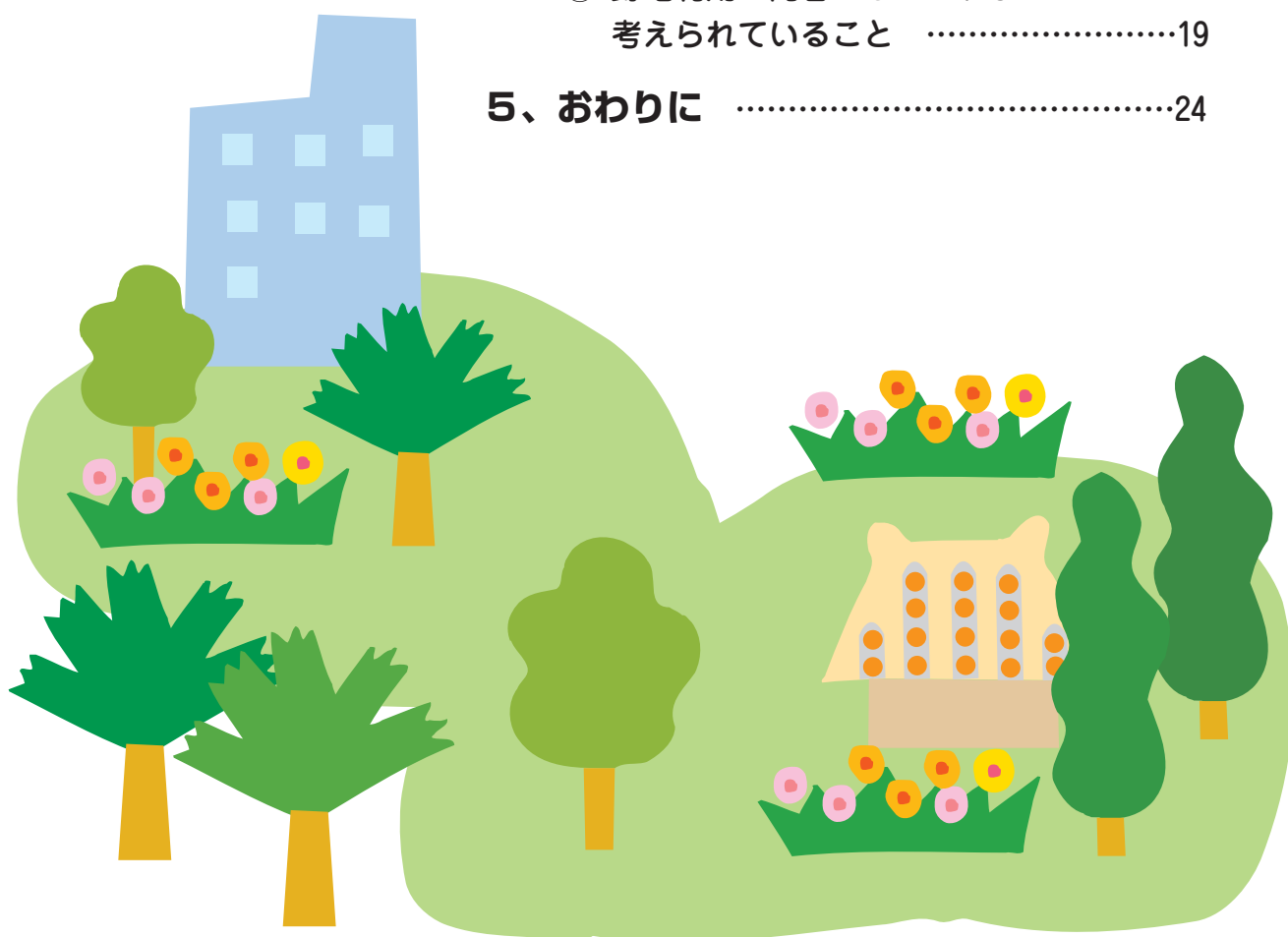
3、普天間飛行場のまちづくりを進める上で 考えなくてはならない歴史や自然のこと

- ① 歴史のこと 8
- ② 自然のこと 13

4、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて 今取り組んでいること

- ① 跡地利用に向けた取り組み 18
- ② 跡地利用の内容としてこれまでに
考えられていること 19

5、おわりに 24



1 宜野湾市ってどんなところ？

① 県内での位置

宜野湾市は沖縄本島の中南部に位置し、県の中心である那覇市まで約12km（車で30分位）、北部の中心である名護市まで約40km（車で1時間位）のところにあります。

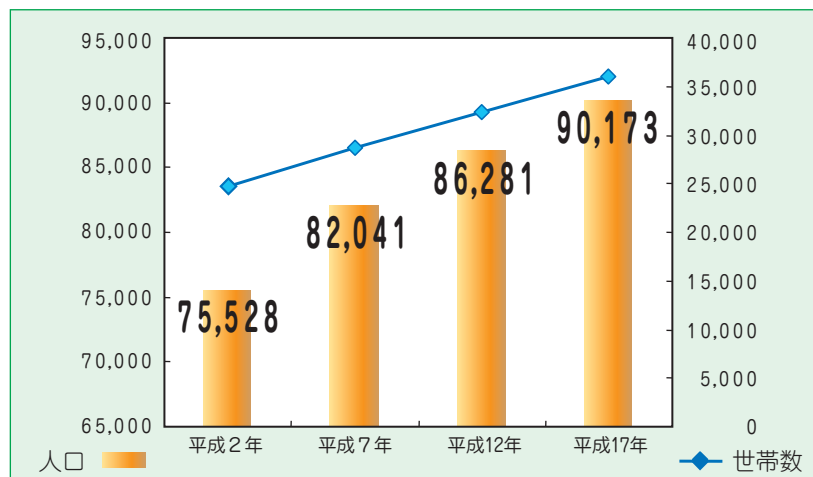
市の西側は東シナ海に面し、北は北谷町、東は中城村、北中城村、南は西原町、浦添市と接しています。

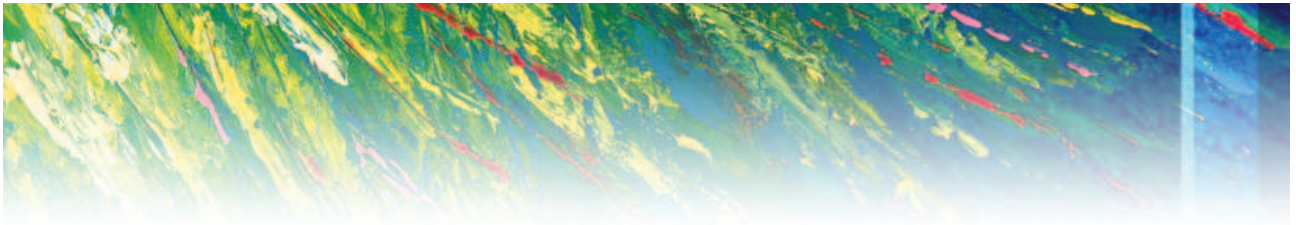


② 人口推移

現在沖縄県には130万人を超える人が住んでおり、そのうち約9万人が宜野湾市に住んでいます。県内では、那覇市、沖縄市、うるま市、浦添市に次いで5番目に多い人口となっています。

平成2年の人口は約75,000人でしたが、それから15年間で約15,000人増えています。普天間飛行場がかえってきたら、もっと人口が多い、にぎやかなまちになることが期待されます。





③ 宜野湾市の農業

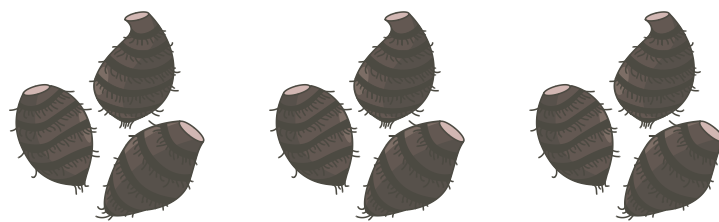
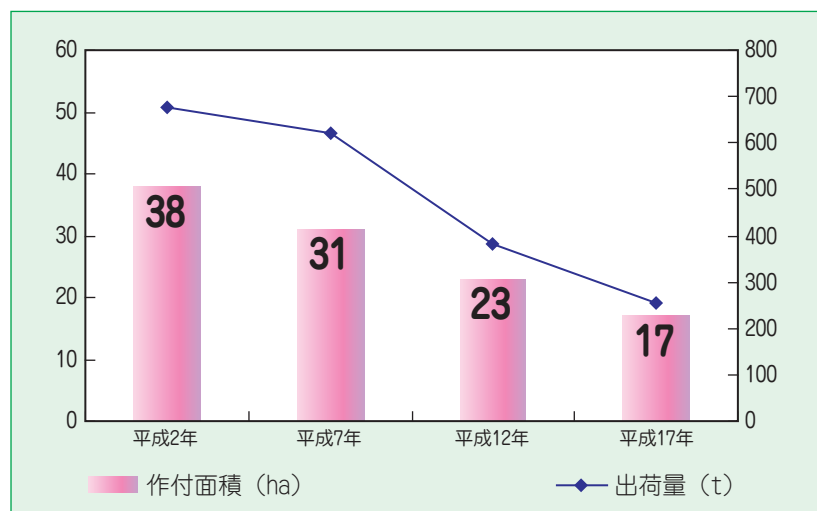
宜野湾市では大山地域の農業（田いも畑）が有名です。宜野湾市で農業を仕事としている人の数は年々へってきてはいますが、宜野湾名物のタームパイは県内外からも人気があり、近年では田いもを利用した新しい商品開発にも取り組まれています。



大山地域の田いも畑



タームパイづくりの様子



1 宜野湾市ってどんなところ？

④ 宜野湾市の商工業

宜野湾市には1,000を超えるお店などがあり、7,000人を超える人がそこで働いています。商店等の多くは国道58号や330号沿い、普天間・真栄原・西海岸などの地域に集まっています。

特に近年の西海岸地域の発展はいちじるしく、スーパーやホームセンターなどが立ち、週末などは多くの人でにぎわっています。また、この地域の発展は、雇用の場の創出につながることも期待されています。

その一方で、昔からの商業地として形成されている普天間の中心市街地などは衰退の傾向にあり、まちの中心としてにぎわいを取り戻すことが望まれています。

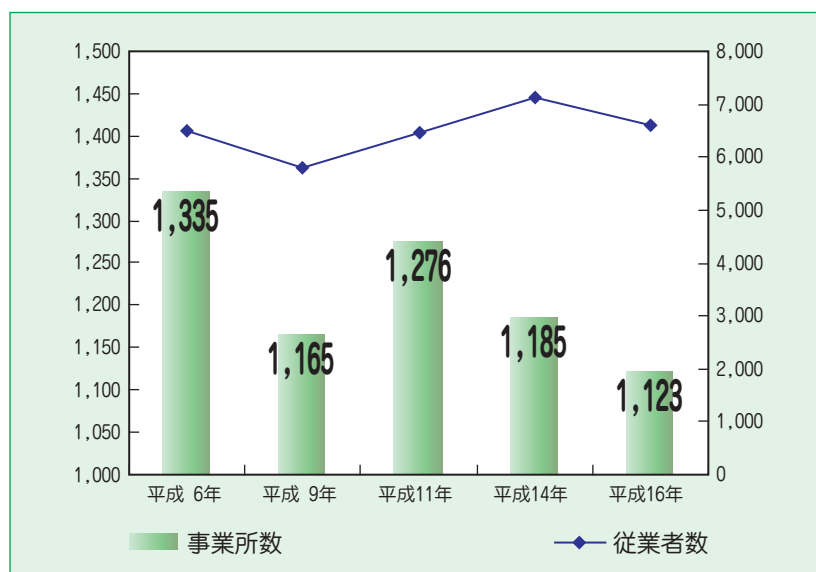
工業については、宜野湾市内に約90の事業所があり、そのうち食料品をつくっている所が20箇所ほどあり、一番多くなっています。



サンフティーマ



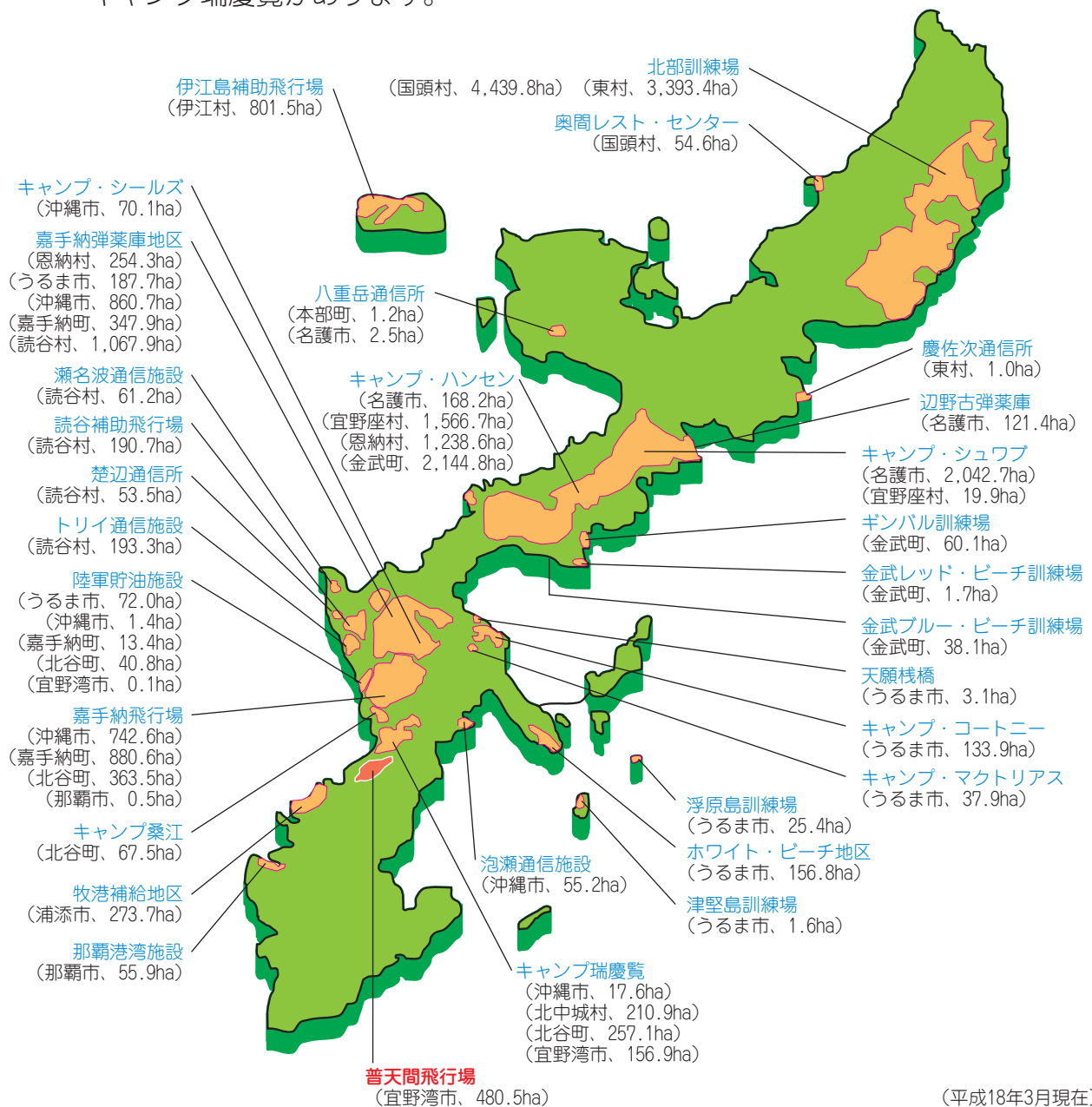
西海岸地域の商業施設



2 普天間飛行場ってどんなところ？

① 沖縄県にある米軍の基地

沖縄県は、日本全体の面積のわずか0.6%に過ぎない狭い県です。そんな沖縄県に、戦後60年を経過した今もなお、国内の米軍専用施設面積の約75%に及ぶ広大な面積の米軍基地が存在しています。米軍専用施設は、沖縄本島全体の面積の約18.4%を占めています。沖縄本島には下の図に示すだけの基地があり、宜野湾市には今回紹介する普天間飛行場と、もう一つキャンプ瑞慶覧があります。



2 普天間飛行場ってどんなところ？

② 普天間飛行場の位置

下の写真は、嘉数高台公園の展望台から見た宜野湾市の様子です。真ん中に大きな普天間飛行場があり、その周りに住宅地がところせましと広がっています。この跡地が使えるようになったらどんなに魅力的な宜野湾市になることでしょう。

嘉数高台公園の展望台は、誰でも入れて宜野湾市全体を眺められます。ここにくると普天間飛行場の大きさやみんなが住む住宅が周りにびっしりと建っていることがよく分かります。市民の皆さんもぜひ一度展望台に登り、普天間飛行場を眺めながら、どんな跡地利用が考えられるか思いえがいてみましょう。



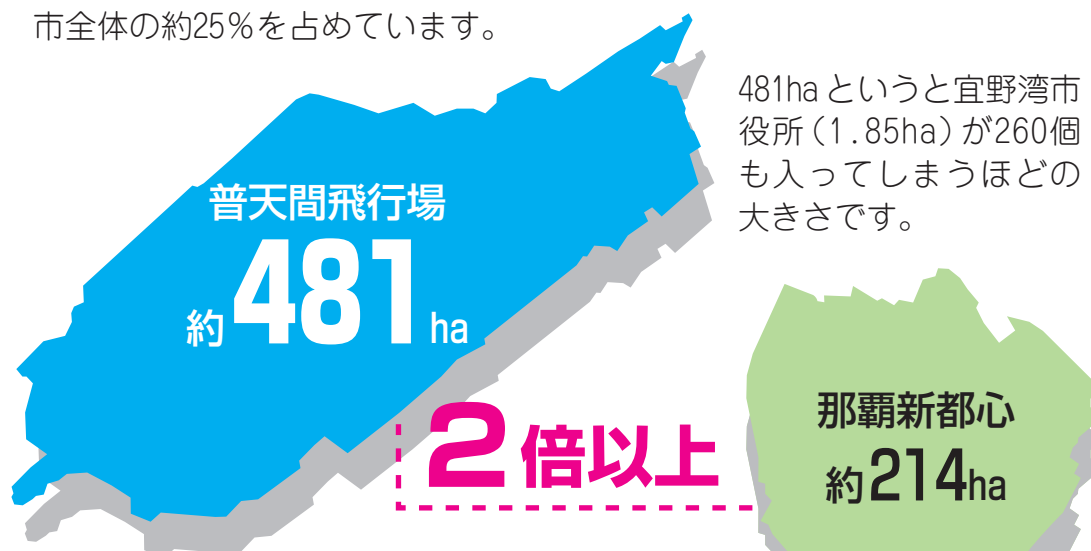
嘉数高台公園の展望台から見た宜野湾市



嘉数高台公園の展望台

③ 普天間飛行場の大きさ

宜野湾市の中央部に位置している普天間飛行場の面積は約481ヘクタールで、これは那覇新都心地区の2倍以上もの大きさとなっており、宜野湾市全体の約25%を占めています。



481ha というと宜野湾市役所 (1.85ha) が260個も入ってしまうほどの大きさです。



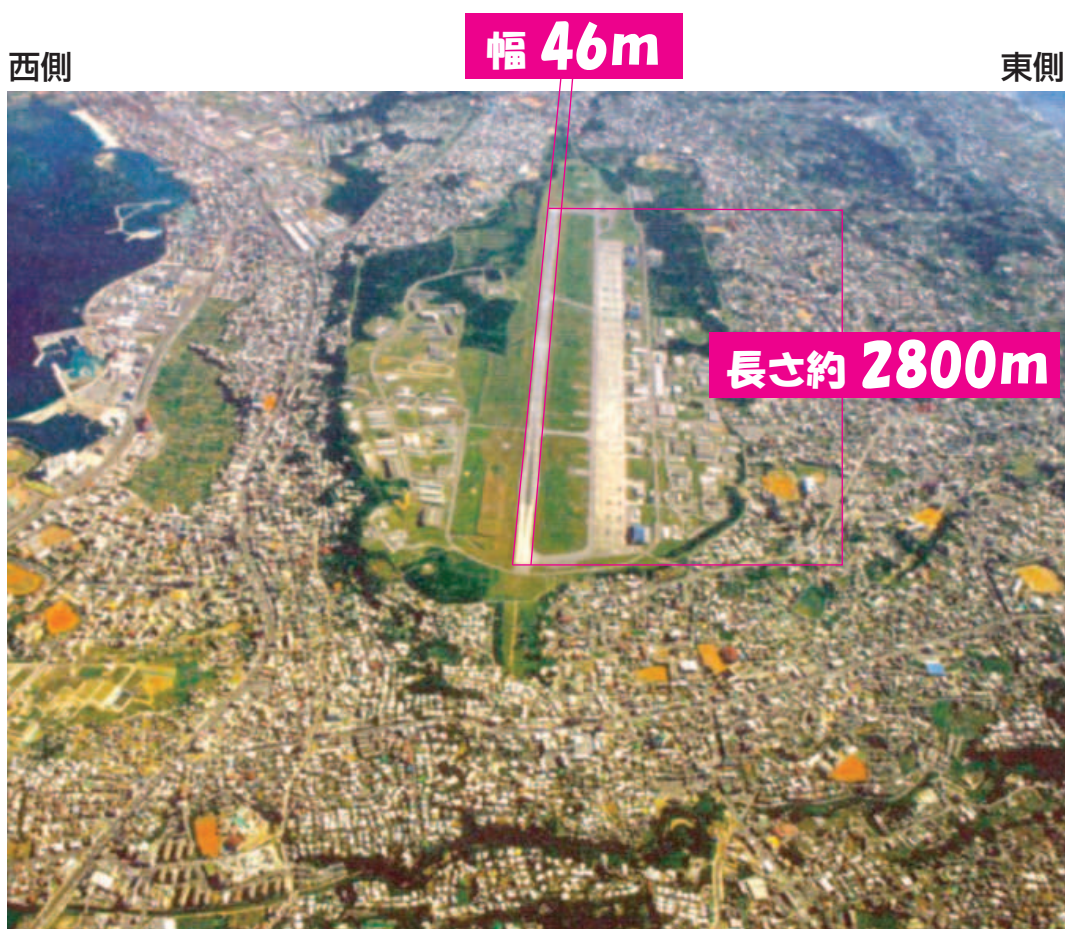
2 普天間飛行場ってどんなところ？

④ 現在の普天間飛行場

普天間飛行場は、沖縄戦があった昭和20年に米軍が強制的に取り上げて以来、約60年にわたり米軍飛行場として使用されています。敷地の大部分が民有地となっており、地権者（土地をもっている人）は約2,900名います。

また、普天間飛行場には、軍人軍属が約3,700人、約200人の日本人従業員（事務職、ウエイトレス等）が働いています。ちなみに、もう一つの軍用地のキャンプ瑞慶覧では約2,000人が働いています。

基地の中心部は長さ約2,800m、幅46mもの滑走路があります。滑走路の西側には司令官の庁舎や兵隊の宿舎、ボーリング場、教会等が配置され、東側には格納庫、消防署等があり、航空機基地として総合的に整備されています。

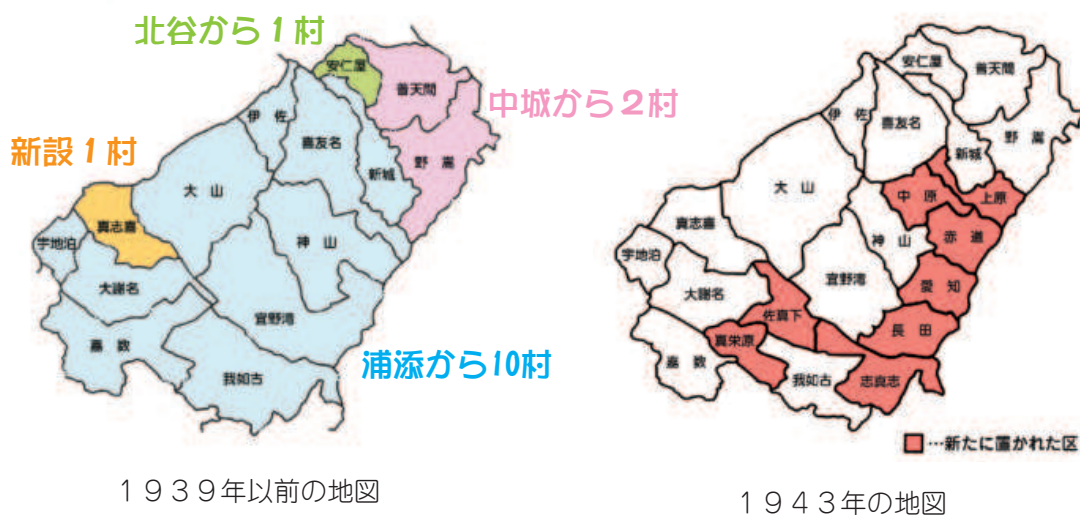


3 普天間飛行場のまちづくりを進める上で 考えなくてはならない歴史や自然のこと

① 歴史のこと

宜野湾は、琉球王府時代（1671年）に浦添間切・中城間切・北谷間切から分離したムラによって新しくつくられました。その後、琉球（沖縄）が日本に組み入れられてから「宜野湾村」となり、戦後になって今の「宜野湾市」となりました。

宜野湾はいつごろできたのか？



普天間飛行場は、昭和20年に米軍に強制的に^{きょうせい}取り上げられてつくられたものですが、この飛行場ができる前の宜野湾市は、集落と畑や水田を中心としたのどかな農村地域でした。



昭和の初めごろの宜野湾集落の様子

3 普天間飛行場のまちづくりを進める上で 考えなくてはならない歴史や自然のこと

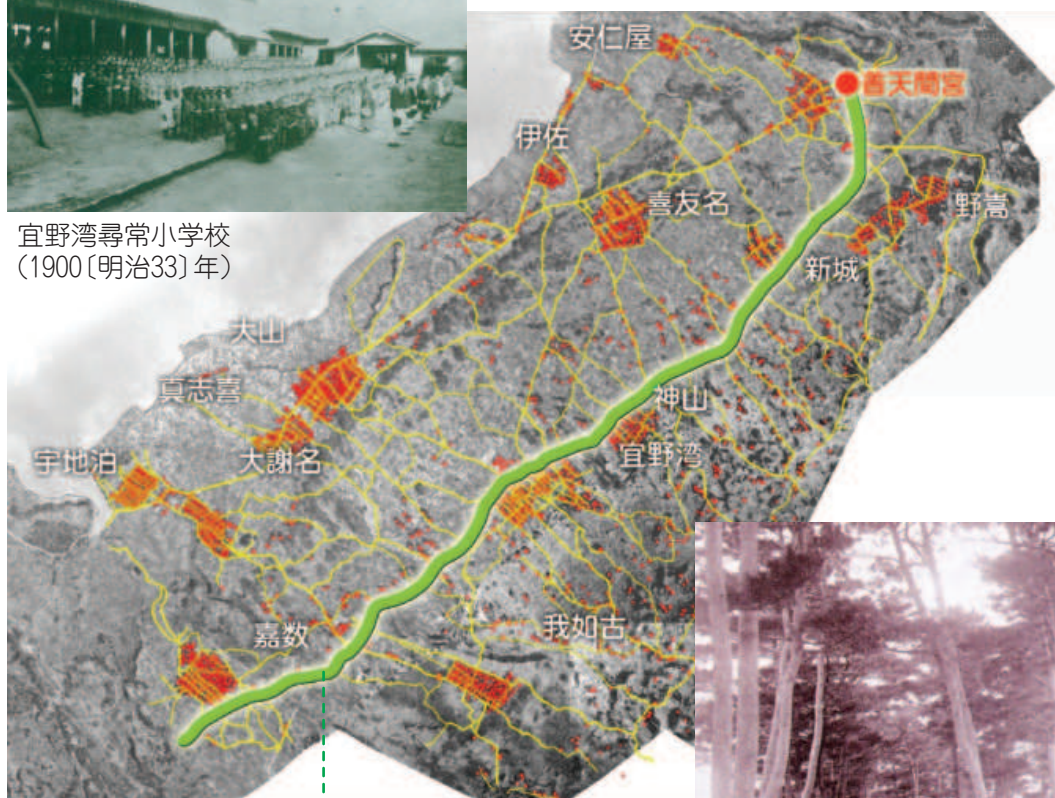
戦前の主な集落（人が集まって住んでいた所）は、宜野湾・普天間・野嵩・大山・伊佐・喜友名・真志喜・神山・新城・安仁屋・我如古・嘉数・宇地泊・大謝名で、各集落へ通じる道がありました。その中でも宜野湾集落は、現宜野湾市の中心地であり、馬場や学校、役場などがありました。さらに那覇、浦添、北谷、中城へと他の地域へ通じる道が縦横に張り巡ら（じゅうおうめぐ）されていた。その道の中でも特に有名なものに、『宜野湾並松街道』（ぎのわんなみまつかいどう）という道がありました。

この道は、琉球国王が普天満宮へお参りするための道で、宜野湾・神山・新城集落の道路沿いに松が植えられており、戦前までは国の天然記念物でしたが、1920（昭和20）年3月ごろ、米軍の戦車が入ってくるのを防ぐために日本軍によって切りたおされました。



宜野湾尋常小学校
(1900〔明治33〕年)

宜野湾の集落・道



宜野湾並松街道

宜野湾並松と一の鳥居
(1924〔大正13〕年頃)

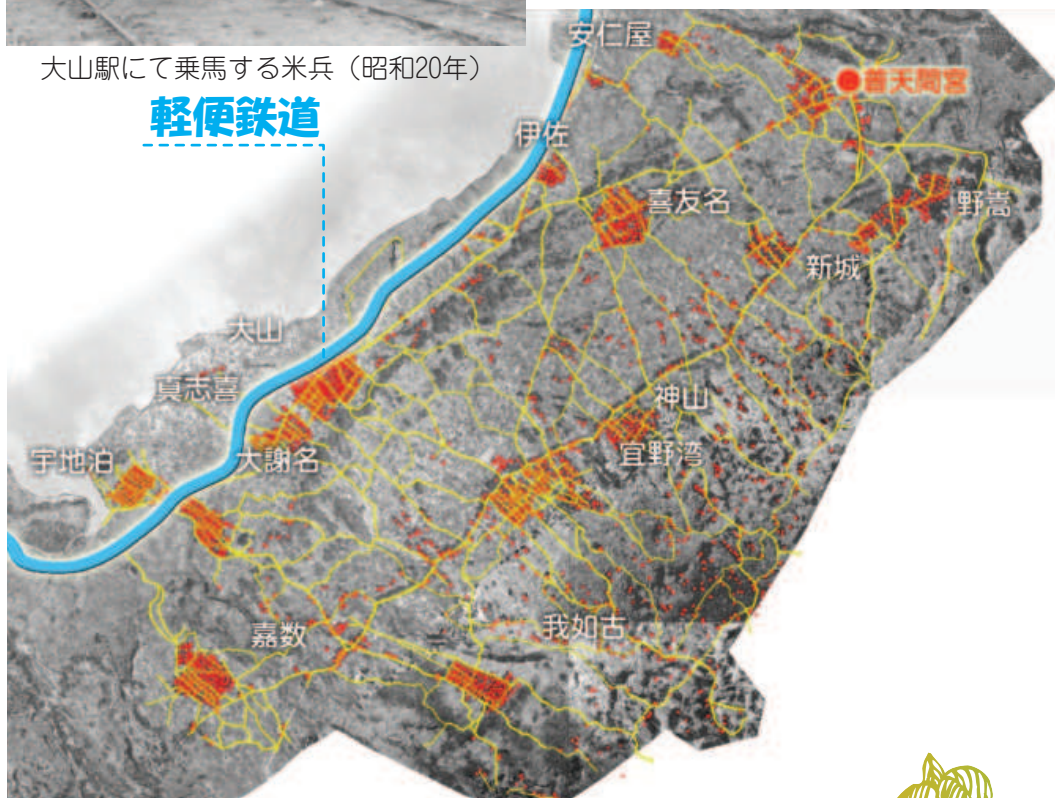


昔は宜野湾市にも『^{けいびん}軽便鉄道』という鉄道が走っていました。この鉄道は、1922(大正11)年に開通し、^{かいつう}那覇を出発して浦添の牧港、宜野湾の大謝名、真志喜、大山をへて北谷、嘉手納までへと続くものであり、多くのサトウキビなどが運ばれていたようです。



大山駅にて乗馬する米兵（昭和20年）

軽便鉄道



宜野湾の集落・道



3 普天間飛行場のまちづくりを進める上で 考えなくてはならない歴史や自然のこと

戦後は、米軍の基地がつくられ、基地のまちとなっていますが、今でも市内には、昔ののどかだった頃を思い起こさせるような文化財などが残っています。数にして遺跡が160箇所以上、湧泉・拝所等は200箇所以上あります。

普天間飛行場内にも多くの遺跡・文化財が残されており、3000年前やつい60、70年前の人々が生活した跡や、生活に欠かせない泉などがあります。

普天間飛行場跡地利用では、こうした歴史があることを頭に入れて計画をつくっていく必要があります。

宜野湾市の主な文化財



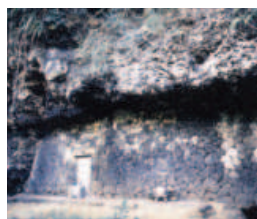
【喜友名泉】

喜友名区にある湧き水で、飲料水や洗濯によく利用されてきました。



【普天満宮洞穴】

普天満宮の境内にある洞穴で、内部には鍾乳石や拝所などがあります。



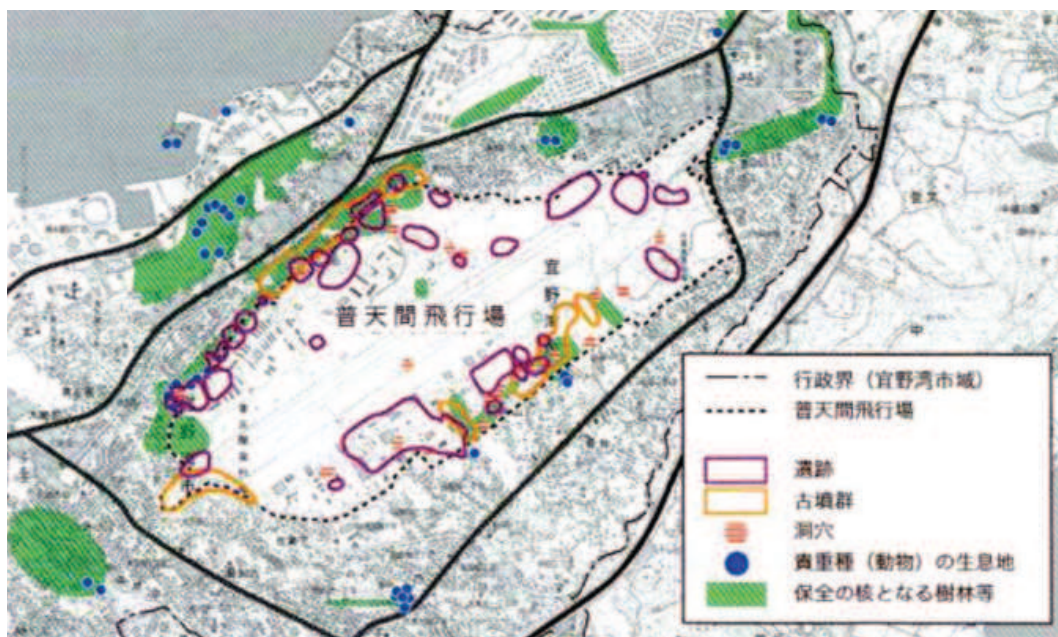
【小禄墓】

数百年前に川べりの急な崖に横穴状につくられた古い墓です。



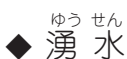
【野嵩石畳道】

市町村間を結ぶ道として18世紀後半の頃につくられたと考えられています。



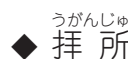
遺跡

過去の人類の生活・活動のあと。



湧水

地下水が自然にわき出る所。



拝所

神をおがむ場所。

普天間飛行場内の主な文化財



【60年前の屋敷跡（赤道）】

基地内には戦前の屋敷跡が多く残されています。伝統的な石垣囲いや豚小屋、井戸などを見ることができます。



【線刻石版】

神山テラガマ洞穴から出土した不思議な石板で、表裏面には文字のような線刻がありますが、未だに解読されていません。



【神山テラガマ洞穴遺跡】

字神山の聖地で、現在も大切に拝まれています。この洞穴には普天間宮の女神が一時住まわれていたという伝説があります。



【新城ガー】

字新城の村井戸で、古い時代に瑞慶覧基地側から村を移したときに掘りあてたといいます。



【洞穴内の拝所】

沖縄の伝統的な聖地には、たいてい石でつくられた香炉が安置されています。



3 普天間飛行場のまちづくりを進める上で 考えなくてはならない歴史や自然のこと

② 自然のこと

普天間飛行場の跡地利用を考える上では、歴史のほかにもう一つ重要なことがあります。それは緑や水などの自然です。普天間飛行場には多くの緑がありますが、今自分たちが住んでいる所にはまとまった緑がほとんどありません。緑にはまちにうるおいを与えたり、目にやさしかったり、火事から人々を守ったり、生物のすむ所にもなっていたりと様々な役割があるため、普天間飛行場跡地利用の際にも緑を活かしながらまちづくりを行うことが重要です。

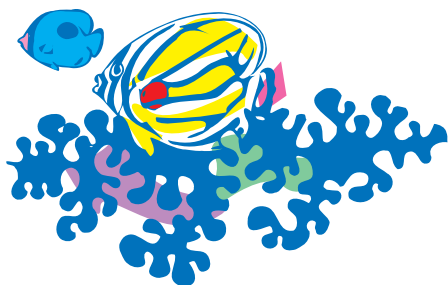
また、宜野湾市内にはオキナフキノボリトカゲ、ミサゴ、オキナフヤマタカマイマイ、オカヤドカリなど絶滅の危機にある動物が数多くいることがわかっています。これらの動物は、大山の田いも畑や森川公園、嘉数高台公園、我如古や野嵩にあるお墓の周りの緑など、緑が多く残っている場所に集まっています。



大山の田いも畑



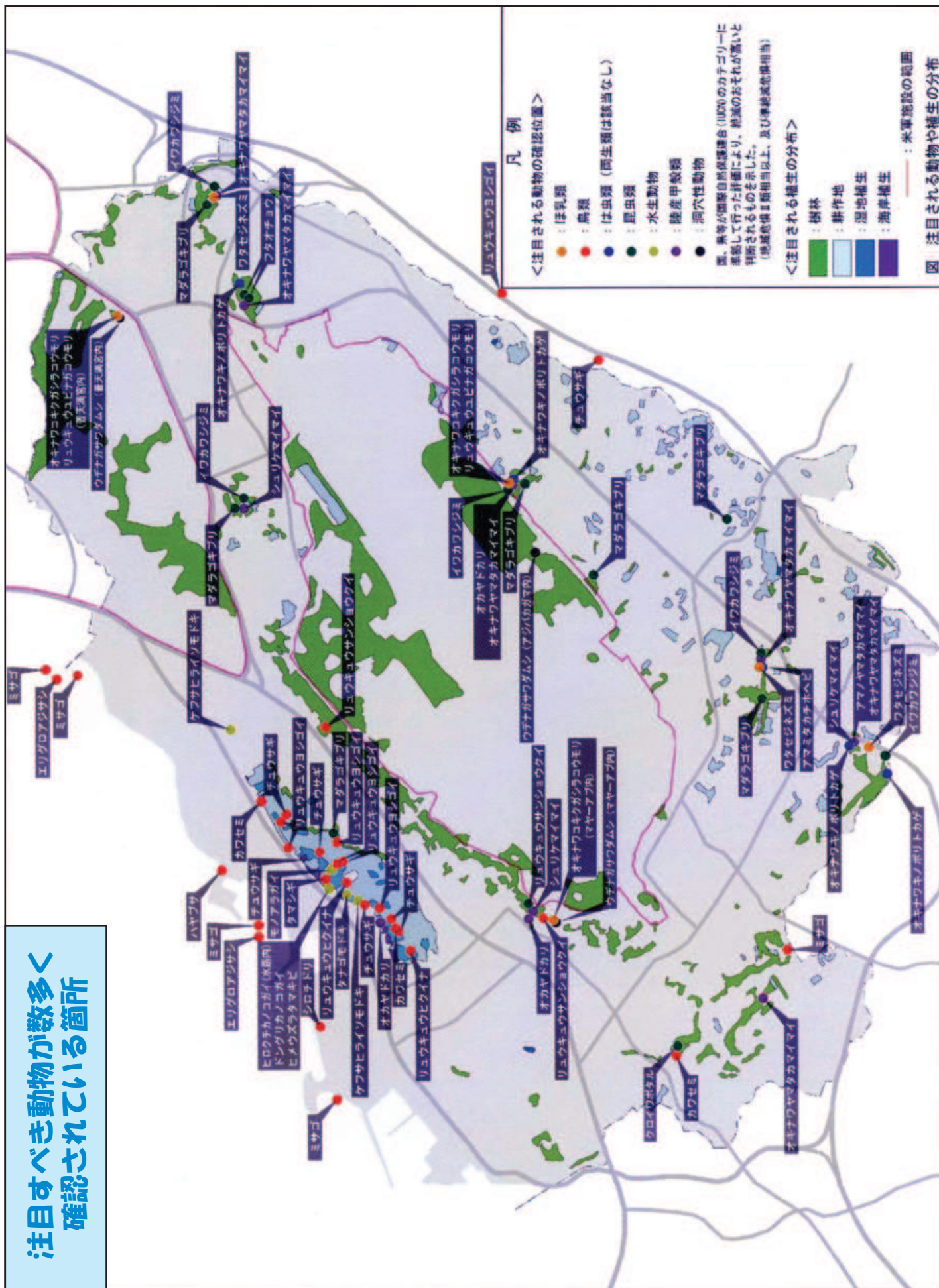
森川公園



嘉数高台公園

宜野湾市の海岸域では、コンベンションセンターや宜野湾漁港の付近に小規模ではありますがサンゴ礁がみられます。このサンゴ礁は近年少しずつ回復しつつあり将来的には、市街地の近くで見られるサンゴ礁として、宜野湾市の魅力を高めるものとなることが期待されます。

注目すべき動物が数多く 確認されている箇所



注目される主な動物



オキナワキノボリトカゲ
日本動物大百科
(平凡社)



イワカワシジミ
H14.8 志真志



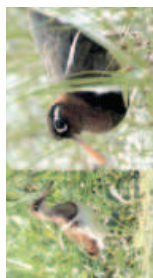
アマミタチホヘビ
日本動物大百科
(平凡社)



ミサゴ
日本の野鳥
(山と溪谷社)



ハヤブサ
日本動物大百科
(平凡社)



タマシギ
日本動物大百科
(平凡社)



エリグロアシサシ
沖縄の野鳥
(新報出版)



リュウキュウヨシゴイ
日本動物大百科
(平凡社)



チュウサギ
日本動物大百科
(平凡社)



オキナワコキウガシラコウモリ
日本動物大百科
(平凡社)



リュウキュウユビナガコウモリ
日本動物大百科
(平凡社)



ワタセシネズミ
日本動物大百科
(平凡社)



クロイワボタル
ぎのわん自然ガイド
(宜野湾市教育委員会)



ドングリカノコガイ
ぎのわん自然ガイド
(宜野湾市教育委員会)



マダラゴキブリ
沖縄昆虫野外観察図鑑
(沖縄出版)



オキナワヤマトカマイマイ



アマノヤマトカマイマイ



シュリケマイマイ
ぎのわん自然ガイド
(宜野湾市教育委員会)



モノアラガイ
原色日本貝類図鑑
(保育社)



ヒメスラタマキビ
ぎのわん自然ガイド
(宜野湾市教育委員会)



オカヤドカリ
原色日本大型甲殻類図鑑I
(保育社)



ケフサヒライソノモドキ
原色日本大型甲殻類図鑑II
(保育社)



タナゴモドキ
原色日本淡水魚類図鑑
(保育社)



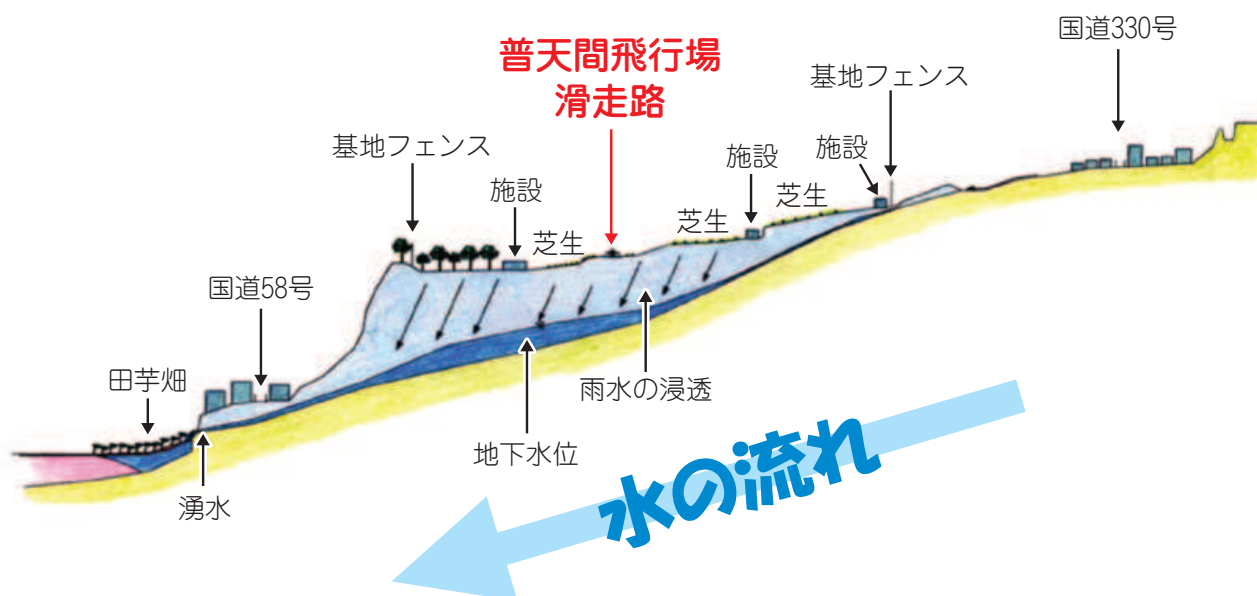
ウデナガサワダムシ
H14.8 マヤーアブ

3 普天間飛行場のまちづくりを進める上で 考えなくてはならない歴史や自然のこと

緑や動植物の生息は、水の環境とも大きくかかわりを持っています。宜野湾市の地形は海側が低く、陸側の国道330号方面が高くなっています。そのため、宜野湾市に降った雨は排水路や地下を通して高い所から低い所（国道330号側から海の方）に向かって流れています。また、普天間飛行場周辺には、水を通しやすい琉球石灰岩台地が広がっており、地下にたくわえられた水は、湧水となって多くの場所から湧き出しています。大山の田いも畑では、この湧水がつかわれており、田いも畑を守るといったことから湧水は大きな役割を果たしています。

しかし、生活排水などにより、雨の多い時期には地下水の大腸菌が増え、いやなにおいが発生するなど、飲み水には適さないような湧水も確認されています。

宜野湾市の水の流れ



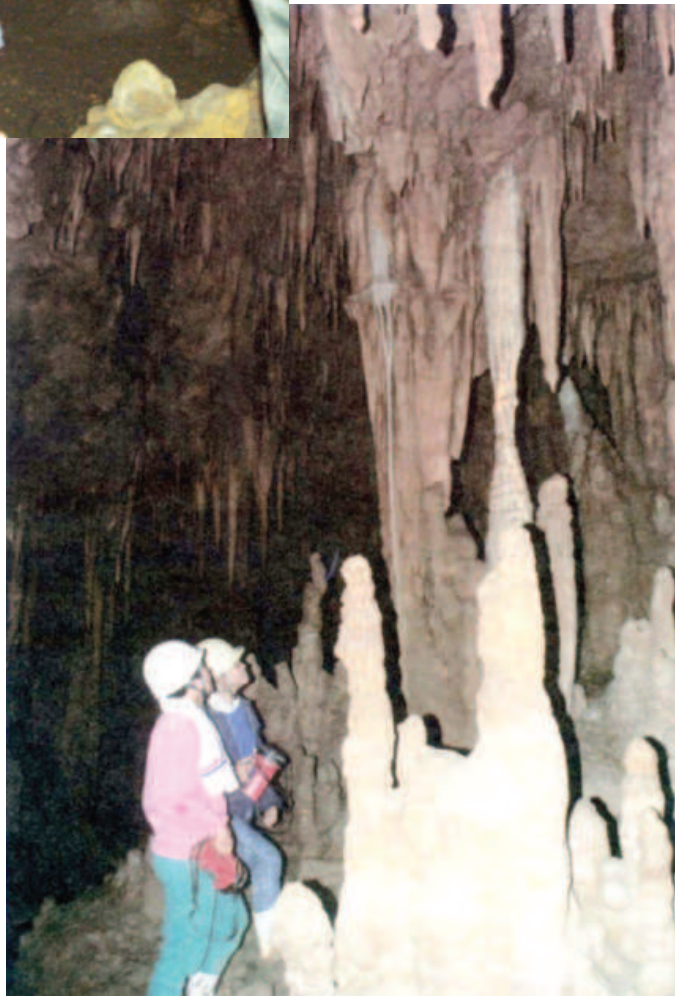
水量が豊富な湧水

3 普天間飛行場のまちづくりを進める上で 考えなくてはならない歴史や自然のこと

琉球石灰岩台地周辺では、鍾乳洞しょうにゅうどうの入り口が数多く確認されており、地下には鍾乳洞が網の目のように発達あみはったつしていると考えられます。これまでの調査の中で、普天間飛行場の地下にも大きな鍾乳洞があることがわかっており、跡地利用と合わせてどのように守り、活用していくかを考える必要があります。



普天間飛行場の地下にある洞穴



4 普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて 今取り組んでいること

ここまでは、普天間飛行場の概要^{がいよう}や歴史のこと、自然のことなどについて紹介してきましたが、ここからは、普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて取り組んでいることを紹介します。



① 跡地利用に向けた取り組み

普天間飛行場は今から10年以上前の平成8年に、全部かえされることが日本とアメリカの間で約束されています。当初は5～7年以内にかえってくるはずでしたが、いまだに実現していません。

しかし、かえてきたらすぐにまちづくりができるよう、平成13年度から、国と県と宜野湾市が一緒になって跡地利用に向けた取り組みをスタートしています。

主な取り組みの内容としては、自然環境の調査や文化財の調査、住宅に関する調査などがあります。

また、普天間飛行場跡地は、2,900名を超える地権者や市民と一緒につくりあげていく必要があることから、そのための情報提供や意見交換を行いながら、みんなで考えていくための調査も行っています。

これらの成果をもとに平成15年度から3ヵ年をかけて、沖縄県と宜野湾市が一緒に、普天間飛行場跡地利用の基本的な考え方をまとめました。これからは、地権者や市民の皆さんと一緒に跡地利用の具体的な計画をつくっていきます。



4 普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて 今取り組んでいること

② 跡地利用の内容としてこれまでに考えられていること

普天間飛行場の跡地利用では、緑がたくさんある環境の中で、人や物や情報が活発に行き交う、沖縄県全体の振興^{しんこう}につながるような場所をつくることや、多くの市民が交流^{こうりゅう}できる宜野湾市の中心となる場所をつくること
が考えられています。



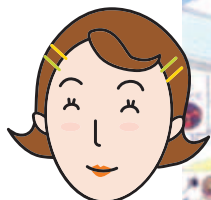
沖縄県の振興の拠点（イメージ）

大人になったら
緑がたくさんある所で
働きたいなあ！



那覇市や北谷町などとは違う
特徴的なまちづくりが
必要ではないか！

やっぱり大きな
デパートなどがあると
便利でいいわね！



市民の交流の場としてにぎわう広場（イメージ）

普天間飛行場跡地内の住宅地は、沖縄ならではの自然環境や伝統的な集落^{でんとうてき}の魅力を取り入れた、これからの時代にふさわしいものを作っていこうと考えられています。

緑がたくさんある
住宅地ができたなら
僕も住みたいな。



他の県の人や
外国の人も
住んでくれたら
いろいろ話せて
楽しそうね。



伝統的な集落の魅力を取り入れた沖縄らしい住宅地づくり（イメージ）

道路は、跡地の内外を結ぶ幹線道路として、（仮）中部縦貫道路や（仮）宜野湾横断道路、そのほかにも多くの幹線道路を整備することが考えられています。このような道路が整備されることにより、いろいろな場所へ行くために遠回りをしなくてもよくなります。また、これらの道路は、単に移動するだけでなく、緑の中をリゾート気分^{かいてき}で快適に通り抜けられるような環境と調和した道路として整備することが望まれています。

また、跡地内では、便利で環境にもやさしい新しい公共交通を取り入れることも考えられています。

歩くところが
広ければ
のんびり散歩
できるわね！



道路には段差が
ないほうがいいなあ。
段差がなければ
ころばずに
車いすの人
も通しやすいはず！



緑の中をリゾート感覚で通り抜ける広域的な幹線道路（イメージ）

4 普天間飛行場跡地のまちづくりに向けて 今取り組んでいること

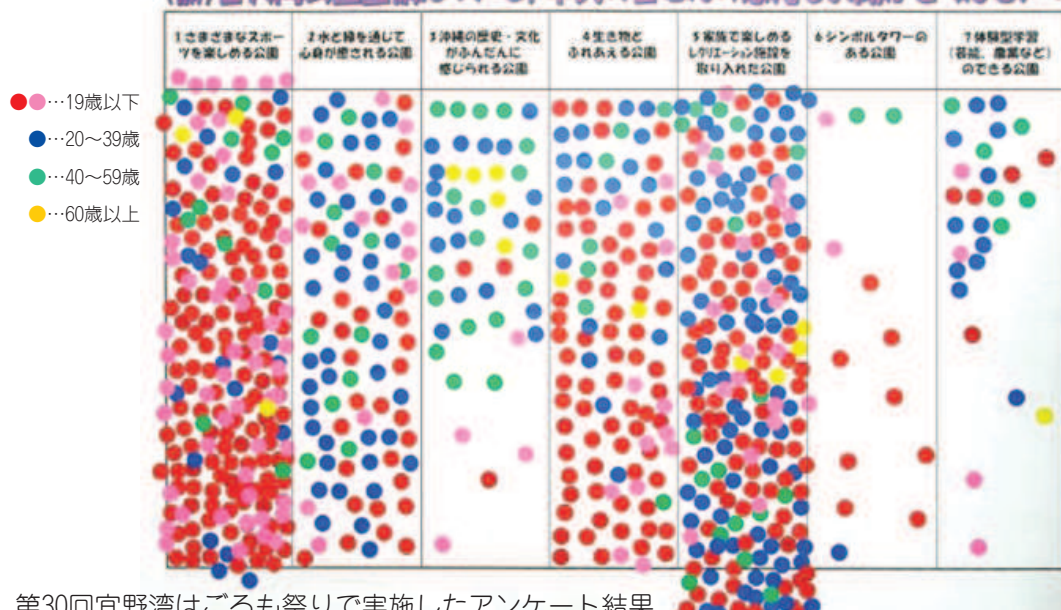
公園では、跡地を魅力あるものとし、県民全体のあしびなーとなる（仮）普天間公園の整備が考えられています。この公園は、災害時の避難場所^{さいがいじ ひなんばしょ}となり多くの人が楽しめ、大きなイベントなどもできるよう、大きな規模^{きぼ}のものが考えられています。具体的な整備内容や大きさ・位置などはこれから計画していくこととなります。



跡地のイメージを高め、県民の「あしびなー」となる（仮）普天間公園（イメージ）

第30回宜野湾はごろも祭り（平成19年8月19日）の会場で行った市民へのアンケート調査によると、「さまざまなスポーツを楽しめる公園」や「家族で楽しめるレクリエーション施設を取り入れた公園」が望まれているようです。

（仮）普天間公園整備について、市民の皆さんの意見をお聞かせください！



第30回宜野湾はごろも祭りで実施したアンケート結果

普天間の歴史を代々伝え、まちの個性^{こせい えんしゅつ}を演出するための一つとして宜野
湾並松^{ふくげん}の復元も考えられています。



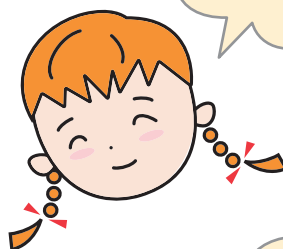
普天間の歴史を代々伝え、まちの個性を演出する松並木の復元（イメージ）

並木道ができたら
友達とみんなで
歩いてみたいなあ…



おじい、おばあが
子どもだった頃は
どんな道
だったのかなあ？

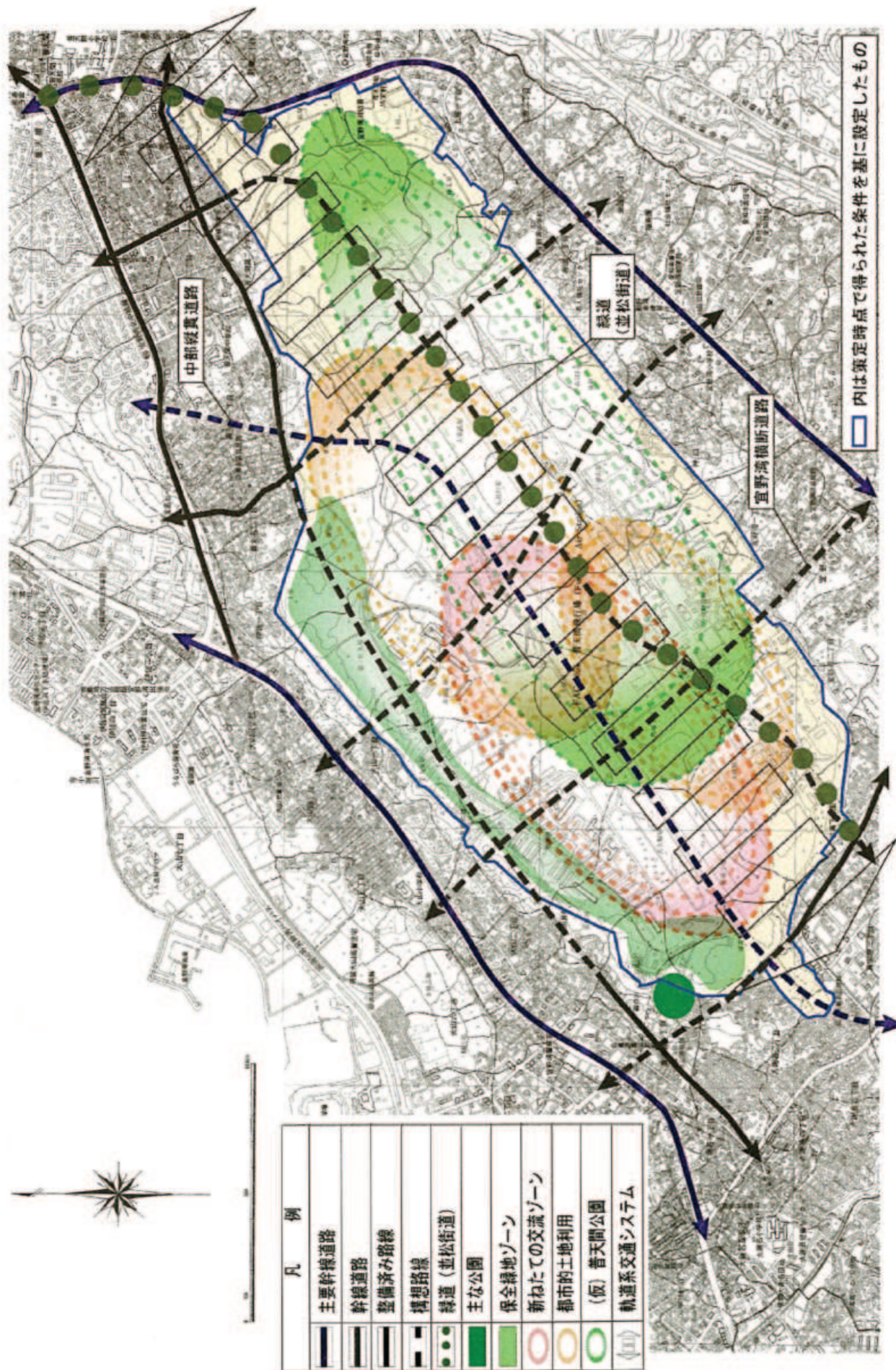
昔の松並木が再現
されれば、のんびり
していた頃を
思い出す
でしょうね…



歴史を忘れないためにも
松並木はぜひ
復活させてほしい！



宜野湾市の明日を拓くまちづくり



5 おわりに

普天間飛行場の跡地に住宅やお店が立ち並び、道路や公園が整備され、多くの人が働く場所となるまでには、まだ時間がかかり、まちが完成するのは今の中学生くらいの人が大人になるころかもしれません。

これから具体的な計画をつくっていくこととなりますが、取り組みを進め、夢のある跡地利用の計画をつくりあげていくためには、普天間飛行場に土地を持つ地権者・宜野湾市民・県民・行政が一緒になって考え、アイデアを出し合っていく必要があります。

夢のあるまちづくりに向けて、すでに動き出している検討グループもあります。地権者の若い世代や家族からなる「普天間飛行場の跡地を考える若手の会」^{かくしゅだんたいしよくいん}や、まちづくりに関心を持つ市内各種団体職員などからなる「ねたてのまちベースミーティング（市民によるまちづくり勉強会組織）」などです。

また、市内の中学校では、普天間飛行場の跡地利用のことを少しでも多くの人に知ってもらうための学習会なども行っています。



普天間飛行場の跡地を考える若手の会



ねたてのまちベースミーティング



まちづくり学習会

普天間飛行場跡地を夢のあるまちとしていくために、引き続きみんなで考えていきましょう！



あなたならどんなまちをえがきますか？

メモ





平成20年3月 宜野湾市基地政策部

宜野湾市役所3階基地政策部内の情報提供窓口では、
普天間飛行場跡地利用に関連する調査報告書などが閲覧できるようになっています。
跡地利用に関わる情報収集や学習の場として是非ご活用ください。

【お問い合わせ】

跡地利用について

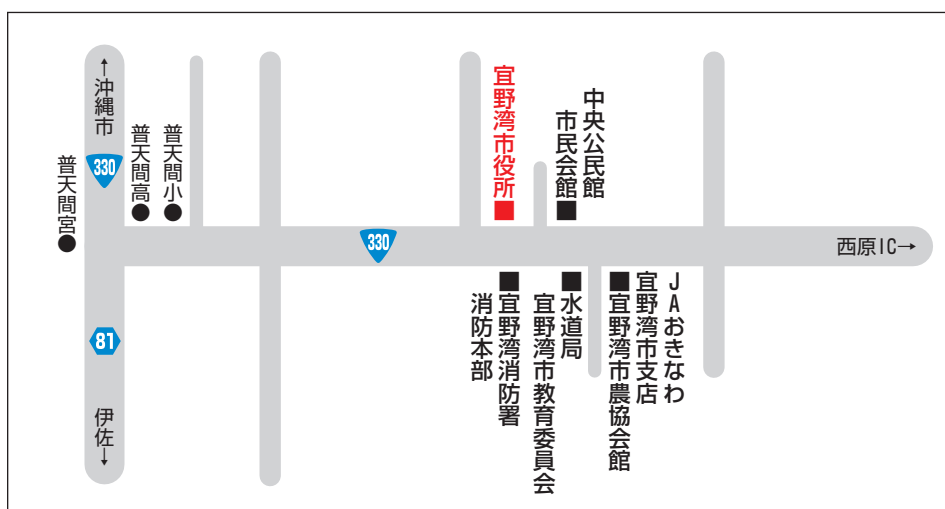
基地政策部 基地跡地対策課

T E L : 098-893-4411 (内線309)

返還対策について

基地政策部 基地渉外課

T E L : 098-893-4411 (内線310)



<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/>